

C-7 婦人服ベイシック形ドレスにおけるゆとりに関する研究 (第3報)

福山女子短大

増田茅子

目的 第1報バストのゆとり、第2報アームホールのゆとりに続いて第3報ショルダールのゆとりについての考察。

方法 J15・L0102の婦人寸法の分類に従って被験者(F女子短大生106名平均年齢19才)を分類し、各サイズ毎に用意したパターンで、材料MUSLINを使用したベイシック形のドレスを着用させ、補正して、再びそれを平面に展開して得た各自オリジナルのパターンの各部寸法を実測し、各部のゆとりの分量を求めた。

結果 マルテン計測器具身長計で、採寸、計算して得た頸付根点から肩峰点に至る採寸肩傾斜角度の平均値 $=24.75^{\circ}$   $S=6.3^{\circ}$ である。頸付根点から肩先点までの実際寸法肩傾斜角度は、前後肩傾斜角度が同一ではないので、前肩傾斜角度+後肩傾斜角度/2 で求めたが、その平均値 $=20.4^{\circ}$   $S=2.2^{\circ}$ であった。ショルダールの形態は著しい個人差があることは衆知のことであるが、採寸寸法と実際寸法の肩傾斜角度及標準偏差は、どの程度まで個人差をおさめ得るかを示す一つの示唆としてみる事が出来るかと思う。肩峰点から肩先点への移動平均値 $=$ 後方へ $0.24\text{cm}$   $S=0.84\text{cm}$  肩ガーツ分量平均値 $=1.3\text{cm}$   $S=0.33\text{cm}$  実際寸法肩巾の平均値 $=12.5\text{cm}$   $S=0.63\text{cm}$ であった。